令和７年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立長居小学校

令和８年２月

（様式１）

大阪市立長居小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

令和７年度の児童数は 725 人、学級数は 36（通常学級 23、特別支援学級 11、他校通級２）であり、12 月に創立 130 周年を迎える。令和９年の冬から西校舎の改築工事が検討されており、２年半にわたって運動場が非常に狭くなる見込みである。

【安心・安全な教育の推進について】

・令和６年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は 82.0％で 0.5 ポイント上回った。令和６年度に認知した案件は、すべて解消できている。

・令和６年度の不登校児童の割合は、令和５年度と比べて増加した。不登校等について、SC、SSW、区役所子育て相談室、こども相談センターと密に連携し、組織的な対応を継続する。

・令和６年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答した児童の割合は 93.0％で、市平均を 2.3 ポイント上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上について】

・令和６年度全国学力・学習状況調査において、国語、算数とも全国平均を上回った。

・令和６年度小学校学力経年調査において、次の学年、教科で市平均を上回った。
（６年全教科、５年社会、英語、４年理科）

・令和６年度全国体力・運動能力調査において、男子１種目（握力）、女子３種目（握力、反復横とび、50ｍ走）で市・全国平均を上回った。体力合計点については、男子は市・全国平均を下回ったが、女子は市平均を上回った。

・「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答した児童の割合は男子が市・全国平均を上回り、女子は市平均を上回った。しかし、「１週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合」は男子が 15.0％、女子が 24.1％であり、市・全国平均よりも高かった。

【学びを支える教育環境の充実について】

・学習者用端末の家庭への持ち帰りが定着した。学習場面における機器の活用や教職員の業務の効率化を進める必要がある。

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準１は、時間外勤務の上限を「月 45 時間」「年間 360 時間」としている。長時間の時間外勤務が常態化しているため、ゆとりの日を継続して設定し、時間を意識できる取り組みを継続していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85％以上にする。（令和６年度 83.3％）

・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を97％以上にする。（令和６年度 96.3％）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を39％以上にする。（令和６年度 38.0％）

・令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を68％以上にする。(令和６年度 66.5％)

【学びを支える教育環境の充実】

・令和７年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える３年生以上の児童の割合を、85％以上にする。（令和６年度 84.8％）

・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を、令和７年度末に50％以上にする。（令和６年度 37.0％）

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95％以上にする。(令和６年度 93.0％)

○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96％以上にする。(令和６年度 95.8％)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40％以上にする。(令和６年度 39.8％)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68％以上にする。(令和５年度 67.1％)

【学びを支える教育環境の充実】
○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（令和６年度 10%未満）
○第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を 50%以上にする。（令和６年度 37.0%）

3　本年度の自己評価結果の総括

「中期目標」の達成状況は、次のとおりである。
【安全・安心な教育の推進】
・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は84.3%で、目標（85%以上）を下回った。
・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は94.5%で、目標（91%以上）を上回った。
【未来を切り拓く学力・体力の向上】
・令和７年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は42.6%で、目標（32%以上）を上回った。
・令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は56.8%で、目標（68%以上）を下回った。
【学びを支える教育環境の充実】
・令和７年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える３年生以上の児童の割合は94%で、目標（85%以上）を上回った。
・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合は45.3%で、目標（令和７年度末に56.4%）を下回った。

各最重要目標における「年度目標の達成状況」は、順にＢ、Ａ、Ｂ評価とした。また、「年度目標の達成に向けた取組内容及び進捗状況を測る指標」は、Ａ評価９項目、Ｂ評価３項目、Ｃ評価２項目であった。
本年度をもって本中期目標は終了する。成果として定着した取組については継続・発展を図るとともに、Ｃ評価となった取組については要因を分析のうえ、改善・見直しを行い、次期「運営に関する計画」に適切に反映させていく。

（様式２）

大阪市立長居小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。（令和７年度 91.9%） ○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。（令和７年度 94.7%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ・児童の社会性の向上をねらい、廊下・階段の安全な歩行ができるよう、環境整備や各種委員会との連携を図りながら、全職員で日常的に指導する。 指標 ・安全歩行週間を学期に１回実施し、安全な歩行について啓発を図る。 ・学校評価児童アンケートにおける「ろうか・階段を安全に歩いている」に対して、「そう思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。（令和６年度 48%）	C
取組内容②【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・持ち物への記名を徹底させ、落とし物について児童や家庭へ啓発することで、身のまわりの物を大切にしようとする意識を高める。 指標 ・学校評価児童アンケートにおける「自分の持ち物に名前を書いて、ものを大事につかっている」に対して、「そう思う」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・学期に１回以上、teams 朝会で落とし物について学級で考える時間を設ける。 ・委員会活動を通して、落とし物を減らす取り組みを年間通して行う。	B
取組内容③【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ・縦割り活動や児童会行事を通して異学年間の交流を深め、互いを思いやり、助け合い支え合っていこうとする気持ちを育む。 指標 ・学校評価児童アンケートにおける「縦割り活動で協力して活動できていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ・縦割り活動を通して他学年と交流する機会を学期に１回以上設ける。	A

取組内容④【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・年間を通して人権課題に対する正しい知識と認識を深める授業実践により、児童の人権尊重に関わる道徳心を高める。 ・係活動や委員会活動、当番活動を通して学年に応じた自己肯定感・自己有用感を高めるための取り組みを行う。 指標 ・学校評価児童アンケートにおける「係活動や委員会活動、当番活動を通して、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

生活委員会で企画した安全歩行週間などの活動を通して、意識づけを行った。「そう思う」の回答は 46%で、昨年度からは２ポイント減少した。肯定的な回答は 85%であった。高学年になるにつれて、少し急いでしまったなどと自分を客観的にとらえてアンケートに答えている児童もいる。さらに、生活委員会の呼びかけにも応じない児童も複数いることや、早く遊びたいという思いもあって走ってしまう児童も多いと考える。

取組内容②

参観日や懇談会に掲示したり、生活委員会がＮタイムに啓発活動を行ったりした。朝会等でも記名の大切さを意識づけるように促した。しかし「そう思う」は 57%と指標まで 13 ポイント届かなかった。肯定的回答 93%であった。児童の中には物が紛失しても、気にせず、新しいものを持参する児童もみられ、新しいものに記名が不十分なことも多い。

取組内容③

初めての縦割り班では集会や USN など様々なイベントを行った。低学年はとても楽しめていた。また高学年はリーダーや自分の役割に責任をもって行い、自分たちでイベントを企画した達成感を感じることができたと考える。肯定的に回答する児童が 96%と指標より 16 ポイント上回った。

取組内容④

学級での係活動や高学年での委員会活動を通して、自分の役割に責任感を持って行う児童が増えていると考える。しかし、係活動や委員会活動が「人の役に立っている」と児童の中で結びつきが難しく、アンケートでは、「そう思う」と回答する児童の割合が 70%と指標に 10 ポイント届かなかった。肯定的回答は 95%であった。

次年度にむけての改善点

取組内容①

後期に行った、チェックカードを使っての取り組みは一定の効果はあったものの、高学年で「そう思う」の回答が低かった。安全歩行習慣のやり方だけでなく、日常的な意識づけのために視覚支援を行っていく必要がある。また、質問の基準が曖昧なこともあって、児童が回答しにくい実態もあり、明確にしていく必要がある。

取組内容②

落とし物に対しての委員会活動を強化し、朝会では落とし物について考える時間をとる必要がある。また、学級でも記名する時間をとり児童が自分事として捉えさせる必要がある。さらに、記名について学年だよりに記載するなど保護者とも協力していく必要がある。

取組内容③

初めての縦割り班活動はどの学年も積極的に取り組めたが、高学年になるにつれて、小グループをまとめないといけないなど大変な部分も見られた。今後は活動内容の工夫や事前に教職員によるイベント内容の理解をさらに深めていく必要がある。今後も様々なイベントを児童自身が企画・運営し、児童が主体的に縦割り班活動に取り組めるよう工夫していく必要がある。

取組内容④

引き続き、各学年に応じた日常的な係活動・当番活動を行い、児童が人の役に立っていると思えるような教職員の声掛けをしていく必要がある。また、児童自身が委員会活動などを通して、主体的に取り組める活動をさらに増やしていく必要がある。

（様式２）

大阪市立長居小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した	Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった	Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 〇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40％以上にする。 （令和７年度 43.5％） 〇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68％以上にする。（令和７年度 68％）	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・主体的･対話的で深い学びに向かう学習活動を通して、児童が自分の思いを伝える力と聞く力を育てていく。 指標 ・１日１回以上、授業のなかでペアやグループでの話し合いを設定する。 ・話し合い活動についてのふりかえりを週に１回以上行う。また、道徳科ではふりかえりノートの活用をすすめる。	A
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・話し合い活動に主体的に取り組み、主体性をもって学習をすすめることができる児童を育てていく。 指標 ・活発な話し合い活動ができるように、１日１回以上、話し合い活動をする前に、自分の考えを整える時間を設ける。	A
取組内容③【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・休み時間の使い方を見直し、様々な遊びに触れられるよう環境を整える。 指標 ・学校評価児童アンケートにおける「１日１回以上外で遊んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68％以上にする。（令和５年度 67.0％、令和６年度 59.0％）	B
取組内容④【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・友だちと一緒に体を動かす楽しさを味わう機会を増やす。	A

指標 ・各学級で月２回以上、運動場でのみんな遊びを設定する。	
取組内容⑤【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・運動に親しむ活動の内容や場作りを工夫し、自ら体力づくりに取り組む児童を育てる。 指標 ・高学年児童と協働して、体を動かす取り組みを年３回設定し、実施する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

年間を通して計画していた取組は滞りなく実施することができた。目標としていた数値を９ポイント上回ることもでき、話し合い活動がスムーズに行えるようになったという実感が児童のなかに生まれてきていることが感じられた。ペアやグループでの話し合いは目標としていた回数より多く実践している学年も多く、年間を通して取組が続いたことも大きな成果であったといえる。道徳ノートの活用も進んでいるという結果もみられた。ペアやグループでの伝え合いは、意見の発表に心理的負担を感じる児童にとって良い手立てとなっているようなので、今後もこの取組は継続したい。

課題としては、いくつかの学年で、話し合いが言い合いのようになっていることがあるのではないかという分析があった。どの学年の児童も話し合い活動については肯定的に考えられるようになってはいるが、一方で、「伝え合ったことから何か発見はあったのか？」「自身の考えは深まったのか？」「新たな気づきが生まれたのか？」という部分の成果が明確ではない。今後は、話し合いによる成果や気づきを指導者がどう把握し、学習活動に反映させていくのかを考える必要がある。

取組内容②

活発な話し合いのために事前に考えを書くというのが、ほぼ定着している。中間評価と同様に、算数科・外国語活動・総合的な学習(総合的読解力)などに加え、後期は理科や生活科、また国語科での読み取りなどでも、考えを整理する時間を設けるようになっている。指導のなかでは、「広める」「深める」とは、どういうことなのかを具体的に示すことや、文章での説明が苦手な児童や難しい課題では、イラストや表などを活用させたりする実践もあった。

今後は、特に効果的であったという実践事例を校内に広げていく場を設けたり、先行事例を追試したりする場を充実させ、指導の改善に活かしていくようにしたい。

取組内容③

学校評価児童アンケート「１日１回以上外で遊んでいる」に対しての肯定的な回答は、69%であり、指標を１ポイント上回っている。休み時間を、「用具を使って遊ぶ時間」と「用具を使わずに遊ぶ時間」に分けることで、様々な遊びに触れる児童が増え、休み時間の怪我も減った。

取組内容④

多くの学年で、係の児童が中心となって、週に１回程度「みんな遊び」を実施することができた。月２回を上回っている学年が多かった。

取組内容⑤ 運動委員会の児童が中心となって、「ドッジボール」「フリスビードッジ」「おにごっこ」「ふえおに」「ケイドロ」「大縄跳び」などの体を動かす取り組みを、毎月実施した。年３回の指標を大きく上回った。
次年度にむけての改善点
取組内容①・② 今後は、継続的な指導とともに、「批判的な見方」や「根拠を示しての発言」などに重点をおいた指導に取り組んでいくことが考えられる。それらは理科教育における科学的な見方・考え方を育てることにもつながり、語彙力を高めたり、資料を活用させたり、帰納的・演繹的な話し合いをさせたりすることで、話し合い活動がより深まるようにしていきたい。 あわせて話し合い活動をより有効で効果的にするためには、なんらかの学校で統一した取り組み（方法やルール）も必要ではないかと考えた。数年前よりハンドサインを用いた話し合い活動に取り組んできたが、その実践が限定的になりつつある実態もある。学校全体の課題として話し合い活動の重要性を再度確認し、共通の認識をもって取り組むようにしていきたい。 取組内容③ 学年が上がるにつれて、学習や委員会活動で外遊びの時間が取れなかったり教室で過ごすことを好む児童が増えたりするため、肯定的な回答が減る傾向がある。今後も継続して、教師の声掛けを続けていく。また来年度は、工事の影響で運動場が使えなくなることへの対策も、考える必要がある。 取組内容④ 次年度も各学級で工夫しながら「みんな遊び」を週に１回実施していく。 取組内容⑤ 次年度も、児童の主体的な取り組みを進めていく。

（様式２）

大阪市立長居小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった	Ｂ：目標どおりに達成した Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50％以上にする。（令和７年度 75.2％） ○第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を 50％以上にする。（令和７年度 45.3％）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育 DX（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】 ・児童が学習者用端末の操作に慣れ、日常的にＩＣＴ機器の活用を進められるようにする。 指標 ・スクールライフノートの活用を進め、全学年で「こころの天気」の入力を毎日行う。	B
取組内容②【基本的な方向６　教育 DX（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】 ・学習者用端末の活用を推進し、効果的にＩＣＴ機器を活用していくことができるようにする。 指標 ・家庭学習や連絡帳などで、毎日学習者用端末を活用するようにし、全学年の児童が、学習者用端末の持参・持ち帰りを行うようにする。	A
取組内容③【基本的な方向６　教育 DX（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】 ・学習者用端末のより効果的な活用をすすめるために、教職員の指導技術向上をはかる。 指標 ・学習者用端末の活用を扱った研修会を年間３回以上行う。	A
取組内容④【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・職員会議、部会、打ち合わせ会等の効率化を進め、事務連絡・集計作業に係る時間を削減する。 指標 ・Teams や Forms などで連絡・調査・アンケートの運用を効率化する。 （研究討議会、児童・保護者アンケート、校務分掌部会開催計画で実施）	A

取組内容⑤【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ゆとりの日を設定し、勤務時間の適正化を図る。 --- 指標 ・毎月の行事予定でゆとりの日を設定し、教職員の 18 時退勤をすすめる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

「心の天気」の入力を各学年取り組み、定着した児童が増えたが、学年によって入力の差もあった。また、遅刻児童やその他の活動に時間を取られ後回しになりやらないままに終わる児童もいた。

取組内容②

２年生以上の学年において、連絡帳や家庭学習等に利用できるようになった。

取組内容③

年間３回の研修会をおこない、Chrome 端末の使用方法など知ることができた。

取組内容④

Teams や Forms の活用により、会議の時間短縮や集計の自動化など仕事の効率化が進んだ。

取組内容⑤

ゆとりの日は、18 時退勤をすることができたが、仕事の持ち帰りなどで、負担が増えると感じることもあった。

次年度にむけての改善点

取組内容①

「こころの天気」以外でも、学習者用端末の操作に慣れることができてきているので、継続してＩＣＴ機器の活用を進めていく。

取組内容②

継続して活用していく。

取組内容③

研修の内容を、授業での指導技術につながるものを取り入れていく。

取組内容④

Teams や Forms だけでなく、生成 AI の活用も取り入れ、業務の効率化へつなげていく。

取組内容⑤

早く帰宅できるよう、時間を意識し計画的に仕事を進められるように引き続き取り組む。